



二俣川小だより

6月号

横浜市立二俣川小学校 平成30年5月25日

発行責任者 校長 池田 千晶



その瞳の先に

池田 千晶



「あっ、梅の実だ、梅！」そう叫びながら、大発見をしたかのように、何度も振り返り帰って行く1年生。人に踏まれてちょっとつぶれた、たった一つの梅の実の脇を何人もの人が通り過ぎていきます。しかし、その子は立ち止まり、つぶれていた実を「梅の実」と認識し、何度も叫んだその表情から、梅の実との楽しい経験があったことを想像することができます。同じ風景の中で過ごしていても、わずか6年の間の経験

の違いで、その瞳の先に見えるものの捉え方は様々であることを再認識した瞬間です。

私事ではありますが、我が子の卒園アルバムの「将来なりたいもの」には、「カラス」と書かれています。なぜそうなのか、大きくなってから理由を聞いてみると「鳥は自由に空を飛べるからいいなあと思った。そのときに身近な鳥はカラスだったから」ということでした。当時の我が子の瞳の先に見えたカラスは、自由の象徴だったという訳です。

子どもが日々生活を送っているということは、生活の中で関わる様々なことを、自分の経験と結びつけて、新しい知として蓄えていきます。私たち大人が子どもに規律や社会性を教えることは必要ですが、時には子どもが瞳で何を捉え、何を感じているのか、心を馳せることも大切なのではないかと思います。そこに子どもを理解するという醍醐味が隠されている気がします。

子どもたちは、今、運動会に向けて全力で取り組んでいます。1年生の瞳の先には、初めての運動会の光景がどのように広がっているのでしょうか。それぞれの感じ方の違いはあれ、全学年が自分のもてる力の全てで取り組んでいることは間違いありません。運動会当日はそれぞれの頑張りを称えたいと思います。参観して頂ける皆様にも、ぜひ温かい声援と拍手をいただければ嬉しく思います。

職員一同、子どもが一層輝けるよう全力で取り組んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

